

津田沼支部に待たせ!

日刊 動労千葉

81.7.28
No. 804

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五六・公衆電話(22)七二〇七

一三〇〇名の総決起で、土屋一派解体！動労大改革をせよ！

執行部十名中六名を不当逮捕された津田沼支部は、山下副支部長を支部長とする暫定執行部を発足させ、文字通り、支部一丸となって叩きぬいていく。不当逮捕された六名の徹底した完全黙秘の叩いと、差し入れ、家族対策、街宣・激励等々の取り組みを籠城体制で貫徹する津田沼支部の叩いは、権力と本部「反動分子をグイグイと追い詰めている。全支部で、この六名の不当逮捕者と津田沼支部の叩いを守り切り、一体となって、さらにかげられてきた五日間の不当な勾留延長攻撃を粉碎してゆこう。

「こんな叩きで済ませようとしたまるか！」

『日刊』第801号で既報のように、7月23日、勾留理由明示公判の行われる千葉地裁前は、怒りに燃えた動労千葉の25名の組合員によって常時埋め尽くされていた。11時から15時30分まで、公休・非番のものはもちろん、動員後に勤務につく者も、又勤務が終わって大急ぎで遅れてかけつけしてきた者も皆一様に「少しでも参加できる時間のある者はみんな結集しよう」との息づみと一体感をみなぎらせていた。明示公判を冤罪高く叩いた後、地裁から護送バスで移動する六名の仲間を地裁門前で激励した後、4葉運動区に移動し、数人あふれる集会が開催された。その中で、山下支部長以下、7月22、23日の任意出頭を拒否して叩く四名の仲間からの決意表明は、現に叩きぬいていく津田沼支部全体の決意をみなぎらせていたものであり、全参加者に深い感銘を与え、奮い立たせるものであった。

全員が活動家となす叩く

山下支部長の「こんなことで津田沼支部をツブされてたまるか。われわれは、片岡支部長以下六名の不当逮捕によって、津田沼支部をツブすぞ」とする攻撃をはね返すために決起した。敵は、われわれ四名に対して、またも出頭命令！不当逮捕の攻撃をしかけてきているが、われわれはビクともしない。六名に続き、更に四名をも

逮捕するといふのならやってみろ。われわれは更に次の執行体制をつくってがんばるんだという確認が津田沼支部全体のものとなってきている。何人逮捕されようが津田沼支部は全員が活動家になり、全員が役員になって叩くのだ。という決意表明に代表されるように、津田沼支部の叩く決意と体制は万全であり、現に、この決意と体制のもとに連日叩きぬかれている。この津田沼支部の決意を支えるものは、
オ一に、この間の動労千葉の叩いに対する確信であり、
オ二に、権力の手先「本部」反動分子と千葉内土屋一派に対する怒りであり、
オ三に、動労千葉の叩いと津田沼支部を絶対的に守り抜くという決意である。

七三〇千葉刑包囲、六名奪還に総結集

動労千葉は、不当逮捕に屈せず、五日間の勾留延長攻撃と対決している六名を守り、早期奪還・起訴攻撃粉碎を勝ちとるべく、七月三〇日、6名激励・千葉刑包囲抗議叩争を叩くことを決定し、全支部に指示した。六名の早期奪還起訴攻撃粉碎にとって、決定的に重要なこの叩いに、全支部から総力をあげて結集しよう!

7月30日、13時~
場所 **千葉市 宝導寺台公園**
(行き方) 国鉄千葉駅前より、京成バス6番のりば「4城台車庫行」乗車、「対がん協会前」にて下車、徒歩3分。
総力結集!

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!